

平成29年度 帯広市文化財審議委員会 議事概要

開催日時 平成29年9月7日(木) 13時30分～14時40分
場 所 市役所8階 教育委員会室
出席委員 安藤委員、池添委員、伊藤委員、熊林委員、近藤委員、齊藤委員
千葉委員、福田委員、舩戸委員 9名
事務局 草森生涯学習部長、森川企画調整監、渡邊文化課長、北沢百年記念館長
杵淵係長、竹森主任補、土田主任補

【内容】

1 開 会

2 議 題

(1) 正副会長の選出について

- ・ 帯広市文化財保護条例第4条第5項の規定に基づき、委員の互選により、伊藤委員を会長、池添委員を副会長に選出。
- ・ 伊藤会長が議長となり、以後の審議を進めた。

(2) 平成28年度 帯広市文化財保護関係事業実施状況について

【説明】

①文化財調査・保存事業、②文化財活用事業、③アイヌ伝統文化保存・伝承事業について事務局より説明

【質疑応答】

なし

(3) 平成29年度 帯広市文化財保護関係事業実施予定について

【説明】

①文化財調査・保存事業、②文化財活用事業、③アイヌ伝統文化保存・伝承事業について事務局より説明

【質疑応答】

なし

(4) その他

【事務局より】

- ・ 情報提供として、文化財に係る国の動向等について説明

【質疑応答】

(委員)

- ・ 文化財の検証は、会議の開催回数や、会議でどのくらい意見が出されるかに反映されていると考える。当文化財審議会は年1回、約90分の開催時間の中で、発言する時間は限られている。以前に無償でもいいので、年に複数回開催して欲しいと意見したが、実現していない。
- ・ 市内の文化財の数は15件、そのうち市指定のものが8件あるが、最後の指定が平成9年であり、その後20年間、新しい指定がされていない。市の文化財指定の促進が望まれる。
- ・ 文化財の価値がある物件として、掩体壕、防空壕、空襲の碑、川西発電所、幸福駅、十勝鉄道の跡（橋梁など）、十勝幌尻岳が国の文化財（名勝）になったことに関連して他8つのアイヌ語に由来する名前を冠した山、大正町や水光園のサケマス孵化場跡、児童会館近くのレンガの跡などがある。
- ・ それぞれの委員が専門や活動分野で候補を挙げて、文化的価値があるものは文化財指定に向けた検討をしていかなければ、この委員会の意義に関わる。

(委員)

- ・ 条例によると、当会は教育委員会の附属機関であり、委員会は会長が招集するとなっている。会長を中心に、複数回の会議を開催しようということが委員会の総意となれば、可能なのではないか。
- ・ 過去に1度、バスで文化財のバス見学を行ったことがある。そのようなことも含めて、積極的に協力して進めていけたらと思う。

(委員)

- ・ 指定を受けている15件の文化財については、委員が変わるごとに、どういう意味合いで指定されたのか説明してもらい、その上で今後どのようなものが候補になるかを討議するべきだと思う。委員会を、もう少し意見を述べる機会にさせていただきたいと思う。

(委員)

- ・ 来年（平成30年）は北海道命名150年。北海道の名付け親といわれている松浦武四

郎は十勝にも来ており、幕末の武四郎の足跡を辿るコースも、興味がある人が結構いると思う。そういう事も、文化財について考えるきっかけとして良いと思う。

(委員)

- ・ 文化財として残したいものがたくさんあると思うが、年1回の会議では少ないと思う。

(委員)

- ・ 審議会の予算がない事は仕方がないので、追加開催分は無償でも構わない。それくらいの意欲がなければ、委員としての責任は果たせないのではないかと思う。
- ・ 委員10人中、女性が3人だが、将来は女性の割合がもっと増えて欲しい。
- ・ アイヌの方も委員になり、意見を述べられるようになるべきだと考える。

(委員)

- ・ 「文化財・史跡 物件連絡票」については、今、各委員から話しがあったようなものを記載して提出し、それについて次回の委員会で審議されるということか。

(事務局)

- ・ まずは、情報を集めさせていただきたい。集まった情報を基礎データとして、今後の委員会で整理し、委員の皆さんに図りながら、長期的な観点で指定や利活用の話をさせていただきたい。

(委員)

- ・ 挙がってきた物件について、委員会で審議するのか。

(事務局)

- ・ 手法については検討させていただくが、委員の皆さんに関わっていただきたいと思っている。

(委員)

- ・ 可能な範囲で、委員会で意見交換ができれば良いと思う。

(事務局)

- ・ 他の委員会の開催状況も見ながら、検討させていただきたい。

(委員)

- ・ それぞれの委員が意見を述べ、会議を充実させていかなければならない。

(委員)

- ・ 20年間、新しい市指定の文化財がなく、新しいものを認定する方向については賛成。
- ・ 川西発電所について、歴史はそれほど古くないが貴重な設備だと思う。壊さず活かすべきであり、そういうものを探していけば良いと思う。

- ・ 「古ければ文化財」とはならない。十勝・帯広にどれだけ文化的に影響があったかが大きな判断要素。百年記念館などにあるものから選択していくと良いと思う。
- ・ 依田勉三翁の日誌などは重要だと思うので、文化財に指定しても良いと思う。

(委員)

- ・ どれを文化財にするかは、それぞれの方で価値の見方が違って来ると思う。文化財の価値は、人間生活に関わりがあって、人間の生活の中で形作られた事実、知恵、寄与度に基づいて文化財を認定していくべきだと思う。

(事務局)

- ・ 文化財制度も時代によって変化している。また、全国的な基準もありつつ、地域ならではのものもあるので、全体の状況を加味しながら、文化財の保存、利活用について協議いただきたい。

3 閉 会